

岡部定一郎「福岡城寸描」(19)

1. 福岡城の構え

櫓の巻7 花見櫓

福岡城内の数ある備えの中にあつて、風流な名前がつけられているのは、前回に述べた月見櫓とこの花見櫓以外にはない。

武人の平常心を養うために、花鳥風月に親しむ心掛け、剛柔併せ持つ心を大切にされた姿なのか、自然の景観の中に学ぶ兵法の一つとして建てられたのかは不明だが、福岡城西三の丸の南西の一画に、当時大堀と呼ばれていた草ヶ江の入江をふさぎ、大きな堀として福岡城の西を守る自然を生かした処に、この二層の花見櫓は建てられた。

黒田家家訓の中に、黒田如水公の晩年の教え「兵法は平法なり」(なるべく戦を避け、政道を正しく、国を治めることが立派な兵法である)が明記されている。

和む心、自然と見つめ合う心、命を与えてくれる自然の真理、命の大切さを観る櫓なのか、自然現象として一番美しい景色ともいえる、玄海夕陽の西海に落ち行く景観も眺められる処である。

明治になって、黒田家の菩提寺である崇福寺に移築され、花見櫓と月見櫓の二棟をつないで、佛殿の教典を収納する倉庫として使用されていた。

現在では、福岡市が調査解体し、やがての折りに福岡城内の昔から建てられていた跡地に再移築する予定となっている。建てるとするならば、今の市美術館東詰の城内土手盛りをしている花見櫓跡だろうと考えられている。

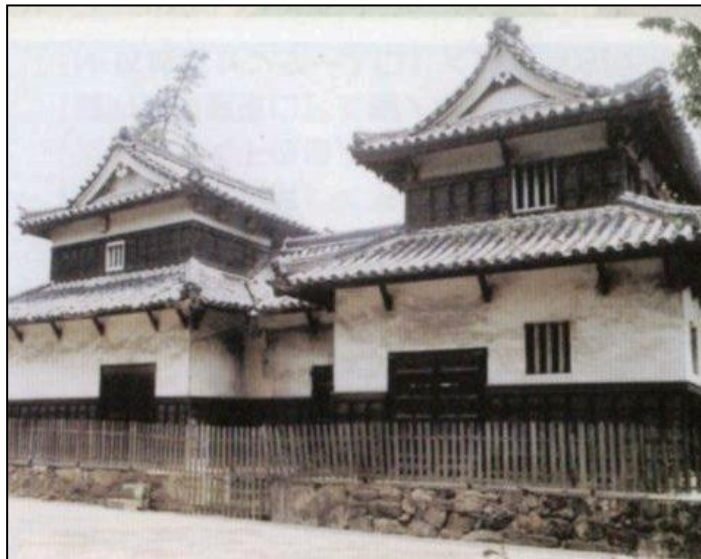
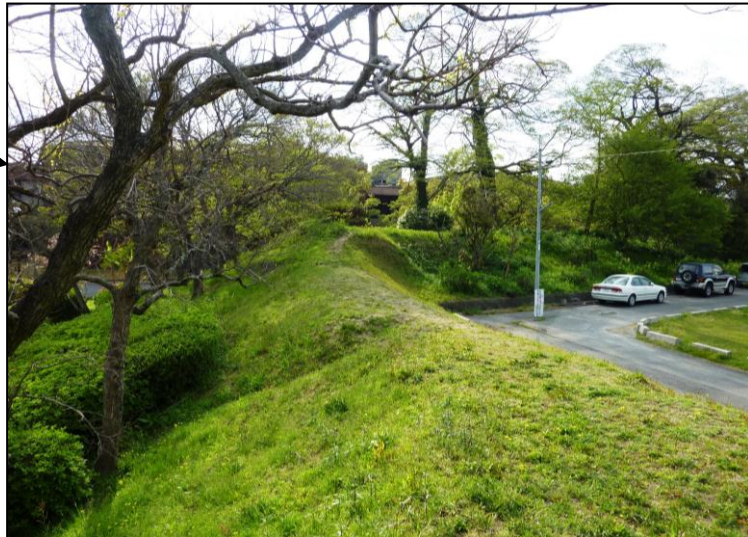
花見櫓





「福岡城市民の会」作製 「福岡城散策マップ」より

「花見櫓」跡地



崇福寺仏殿時代の月見櫓と花見櫓